

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0357
施設名	光明第二保育園
施設所在地	東京都小金井市貫井南町1-13-17
法人名	社会福祉法人 多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育(しいたけ栽培から育てることの大変さと楽しさを知る)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

きのこが苦手な子が多いので、自分たちで育てることですこしだけでも食べてみようかなと思えるようになること。また育てることの大変さや成長過程や育てる環境での違いなどに気づく。

〈光明学園 保育方針 和の保育方針 自然 恵 (めぐみ) 〉

他の声明により生かされていることを知る。

2. 活動スケジュール

10月 しいたけ栽培キットを乳児組は各クラスで1つ。幼児組は異年齢のチームごとに1つの栽培キットを購入し、栽培をスタート。収穫をする。

10月～3月 しいたけ栽培キットにより収穫時期が違いがあり、収穫出来るまで続ける。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

準備したもの (しいたけ栽培キット6つ)

子どもたちが手が届くところに置き、自主的に霧吹きで水をあげたり観察できる環境を設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

各クラス、チームごとに栽培を行った。すぐにしいたけが育ったところとなかなかしいたけが育たないところがあった。なぜ違うのかを子どもたちと一緒に考えながら行ったり、霧吹きで水をあげる当番を決め、順番に霧吹きをしていた。1つの栽培キッドのみ収穫が出来なかったが根気よく霧吹きで水をあげることでゆっくり一つずつ収穫をすることが出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

一気に収穫をしたクラスは収穫をしてすぐに子どもたちの目の前で調理をしたことで、いつもは食べれない子も食べることが出来た。

なかなか収穫出来ないチームは「なんでだろう。きっとゆっくりなんだよ。」と言って根気よく栽培をしていた。保育者はその気持ちを尊重し、いつやめようかを思いながらも育てることで最終2月まで収穫をすることが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

育てる環境により育つスピードの違いや収穫の量を感じることができた。もう終わりかと諦めていたが、子どもたちは「ゆっくりだから。」と言って根気よく育てていた思いを尊重することが出来た。同じ栽培キッドでもこんなに収穫出来る時期や育つスピード、環境の違いなどでこんなにも違いがあるということに気づいた。